

進展するサービス産業化

研究開発室
鈴木 征男

<経済のソフト化・サービス化>

経済のソフト化・サービス化がいわれてから久しい。この動きは、モノからサービスへという家計消費の動きから読みとれるし、また価値観にしても、「ものの豊かさ」よりも「こころの豊かさ」を求める人が圧倒的に多くなっている点からも示唆されている。これを産業の面から示したものが図表1である。ここでは1981年から2001年までの20年間で各産業で働く従業員の構成比を表している。これで見ると、サービス業で働く従業者割合がこの20年間に8.8ポイントも増加したことがわかる。反対に、減少した産業が製造業である。

製造業は経済のグローバル化の動きの中で、国内で生産するよりも効率的ということでは生産拠点が海外にシフトしている。現象としては製造業の雇用の減少分をサービス業が吸収していることになる。

<「その他」産業の増加>

これをより細かい産業小分類でその変化を見ると興味深い動きが生じている。図表2は1996年から2001年までの5年間で、就業者が増加したものを上位10位まで示したものである。ここでみられる特徴は製造業に分類されるものが皆無であり、「電気通信に付帯するサービス業」（産業中分類では電気通信業）と「焼肉店」以外はすべてサービス業によって占められている点と、「その他の…」、あるいは「他に分類されない…」というくくられ方の産業が上位を占めている点である。後者については、従来の定義から漏れる産業の成長が著し

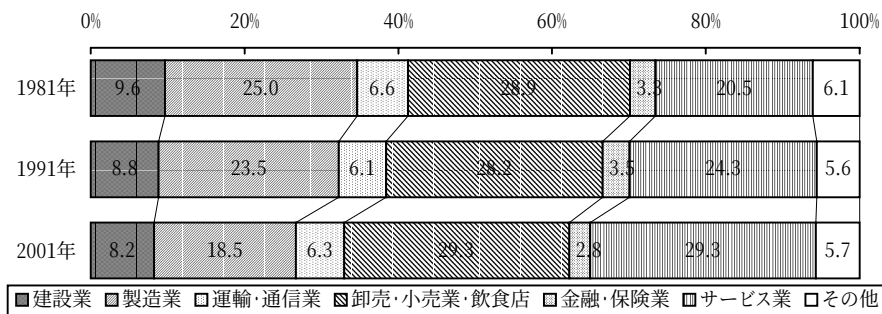
いことを示している。ある意味で、新しい産業が雇用を創出しているといえるかもしれない。

この中で第1位を占めた「その他の医療業」の具体例をみると「看護業、派出看護婦業、介護老人保健施設等」があげられているが、第5位にも「老人福祉事業」があげられている。これらは介護保険制度に関連した業種と考えられる。介護保険制度は2000年4月にスタートしたが、看護師やホームヘルパー、ケアマネジャーといった職種が新たな雇用を生み出したといえる。

<訪問介護事業における就業形態の多様性>

この労働市場の中で、訪問介護事業について就業者の働き方とその意識をみてみよう。図表3は雇用形態別にみた介護労働の仕事を選んだ理由を表したものである。まず、対象者数の分布をみると、正社員は全体のわずか33.7%であり、他は非正社員であったり、登録型ヘルパーであったりする。つまり、働き方が多様であることを示している。その仕事を選んだ理由をみると、「介護や福祉の仕事に関心があったから」が最も高い割合であることは当然として、非正社員や登録型ヘルパーでは「介護の知識や技能を身につけたかったから」や「家事や介護の経験を活かしてできるから」などが相対的に高い割合を占めている。また、登録型ヘルパーでは「自分の都合のよい時間（日）に働けるから」が5割近くの人に選択されており、それぞれのニーズに応じて働き方を選択していることが分かる。柔軟な雇用形態が働く側のニーズに当たっていると考えられる。しかし、一方では、賃金・収入、身分・雇用形態について不満と感じている人も多いという結果も得られており、産業として確立するためには、いくつかの問題点をクリアしていくことが必要なのかもしれない。

図表1 産業大分類別従業者の構成比の推移



注：「その他」は2001年調査で、従業員数が100万人に満たない産業で以下の産業をまとめた。

農林漁業、鉱業、電気ガス、不動産業、公務、他に分類されないもの

資料：総務省「平成13年事業所・企業統計調査速報」、<http://www.stat.go.jp/data/jigyoku/sokuhou/02.htm> より2002年11月収載

図表2 過去5年間で従業者数が大幅に増加した産業（2001年） 上位10位までの産業小分類

順位	産業小分類	具体例	実数(人)	増加率(%)
1	その他の医療業	看護業、派出看護婦業、介護老人保健施設等	149,397	216.3
2	電気通信に付帯するサービス業		102,833	208.7
3	他に分類されない生活関連サービス業	結婚相談業、ペットの美容業、便利屋、易占業等	100,666	99.6
4	労働者派遣業		438,297	82.0
5	老人福祉事業		398,727	79.8
6	焼肉店（東洋料理のもの）		184,463	62.1
7	その他の社会保険、社会福祉	社会福祉協議会、共同作業所（身体障害者・知的障害者施設のものを除く）等	113,500	45.2
8	ソフトウェア業		574,086	44.3
9	その他の個人教授所	囲碁教室、工芸教室、カルチャー教室等	104,112	33.5
10	他に分類されない事業サービス業	ディスプレイ業、産業用設備洗浄業、看板書き業、商品展示所等	453,139	26.8

資料：図表1に同じ

WATCH IN

図表3 訪問介護従業者の介護労働の仕事を選んだ理由（複数回答）

	全 体	正 社 員	非正社員	登録型ヘルパー
対象者数 (%)	2,362(100)	796(33.7)	853(36.1)	678(28.7)
介護や福祉の仕事に関心があったから	72.4	77.0	73.3	66.4
介護の知識や技能を身につけたかったから	48.2	39.8	55.0	53.7
家事や介護の経験を活かしてできるから	32.6	24.9	31.9	42.2
自分の都合のよい時間（日）に働けるから	24.3	3.1	23.3	49.9
就職しやすかった（すぐ就職できた）から	15.2	14.4	15.5	16.2
勤務時間や日数が短くてもいいから	14.7	1.9	14.9	29.1
他により就職先がなかったから	9.0	10.9	7.3	8.8
その他	7.3	7.5	6.3	8.6
不明・無回答	1.3	1.6	1.1	0.7

注：訪問介護事業を行う法人に勤務する介護労働者 2,362人（有効回答）、調査時期は2001年8月～9月

非正社員とはパート、アルバイト、臨時社員、非常勤職員等として働いている者

登録型ヘルパーとは、本人が所属先に登録しておき、本人の都合のよい時に働く者

資料：介護労働安定センター「介護労働者の働く意識と実態」、2002年